

英語能力を高めるための取り組み—数学の授業を英語で—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

ゴールデンウィークに入り、素晴らしい毎日を過ごしていらっしゃると思います。月初めですので、今日はまず、世界の名著を1冊紹介させていただきます。

2. その本は、モンゴメリが著した「赤毛のアン」です。私は、このところ様々な場所に出掛けることが多かったため、4月下旬に体調を崩してしまいました。自宅で横になって休んでいたときに、手の届くところに「赤毛のアン」がありました。そこで、小学生のときに読んで以来久しぶりに、読んでみることにしました。読んでみると非常におもしろく、「こんなにおもしろいものはない」と思い、2日に1冊ぐらいのペースで読み進めました。

3. 「赤毛のアン」は全部で12冊で、新潮文庫から出ています。アンの子どもの頃のこと・16歳から18歳まで学校の先生をした頃のこと・大学での生活と友だちのこと・学校の校長先生になったり、小学校の同級生と結婚して愛情あふれる生活を送ったりした頃のこと・自分の子どもができた頃のことなどが、カナダを舞台にして描かれています。

4. 既にお読みになった方はおわかりだと思いますが、何が素晴らしいかと言えば、カナダの自然が非常にきれいな文章で書かれていることと、友だち・家族・パートナーなどの人間的な触れ合いの場面が非常にわかりやすく書かれていることです。世界の名作として推薦したい1冊ですので、ぜひ読んでいただきたいと思います。

5. この本を翻訳したのは、村岡花子さんです。村岡さんは、NHKの朝のドラマの主人公になった方です。この方の訳はもちろん素晴らしいですが、ほかにも訳している方がいらっしゃいます。ですから、小学生も、中学生も、高校生も読んでいただきたいと思います。また、社会に出た方にも、一度読んだことのある方にも、30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代・80歳代・90歳代・100歳代の方にも読んでいただければ、こんなに素晴らしいことはないと思います。

6. ところで、4月28日(火)の日本経済新聞の北関東版に「開倫塾は数学の授業を英語で行っている」という内容の記事が大きく掲載されました。次は、その記事について少し紹介させていただきます。

開倫塾では、既に実験的に行っていますが、5月をめどに英語で数学を教えるクラスを作ろうと考えています。数式や図形を英語で表現できるようにして、外国人とのコミュニケーション能力を

高めることを目指しています。そうすると、塾生の中心である中学生や高校生だけでなく、社会人の方にも役立つのではないかと思います。

講師には、地元の大学に在籍する外国からの留学生がふさわしいのではないかと考えています。もちろん、日本人でも英語で数学を教えられる方はたくさんいらっしゃいます。ただ、できれば日本あるいは栃木県にいらしている留学生で優秀な方を、国籍にとらわれずに講師として確保し、英語で数学を教えていただくのがよいと考えています。

7. まずは、足利市堀込町にある本部校と宇都宮市の宇都宮大学の近くにある宇都宮東校でスタートし、少しずつ増やしていこうと考えています。本部校で教える方は、足利工業大学大学院の博士課程で学んでいるネパール出身の素晴らしい方です。御存知のように、今、ネパールは地震で大変な状況になっています。

その講師をしてくださる方に「どうしてそんなに英語が上手なのですか」とお聞きしたところ、「林さん、もう少しネパールのことを知ってください」と言われました。それはどういうことかと言うと、ネパールから日本に来ている留学生のほとんどは、小学1年生から、ネパール語以外の教科は英語で教育を受けているそうです。ネパール語は母国語ですからネパール語で教育を受けますが、それ以外はすべて小学1年生から英語で受けるということです。ですから、中学1年生や2年生ぐらいのレベルの数学を英語で教えるのはそんなに難しいことではないというお話でした。実際に授業をしていただいたのですが、非常に流暢な英語で、私もうっとりするくらい上手な数学の授業でした。

8. 県内には宇都宮大学をはじめ多くの大学があり、合わせて1000名弱の留学生が在籍しています。その方々に、アルバイトの一つとして開倫塾の講師になっていただき、中学1年生や2年生ぐらいのレベルの数学を英語で教えていただくことを検討しています。そして、中学生はもちろん高校生や社会人の方々の英語能力をもっともっと鍛えていけたらと思います。

また、これから大学などに進学する方も中学校レベルの数学・理科の内容は英語で身に付けておいたほうが、留学したときに苦勞が少ないのではないかと思います。外国の方々と仕事をする方や外国に行ってマネジャーなどの仕事をする方も、中学校レベルの数学・理科の内容を英語で身に付けておくと、仕事に役立つと思います。

9. このようなことを、4月28日(火)の日本経済新聞の北関東版にトップで大きく掲載していただきましたので紹介いたしました。

開倫塾では、英語以外の教科の教育を英語で行う取り組みをこのような形でスタートしました。できれば、学校でも同様の取り組みをしていただくと、英語の楽しさや実用性が認識できるのではないかと思います。

10. あらゆる情報は英語で入手できます。例えば、インターネットを利用すると、数学・理科に関する内容や情報を英語で大量に取得することが可能です。ですから、せめて中学校レベルの数学・理科の内容は英語で身に付けたほうがよいかと思います。紹介させていただきました。素晴らしいゴールデンウィークですので、身体に気をつけて楽しく過ごしていただきたいと思います。